

2022年度

NO.1

(通算 NO23)

2022・1・1

事務局だより

一般社団法人 示現会

事務所 ☎ 03-38249128

- 成田理事長新年のあいさつ
- 支部長挨拶

裏面 ○<特集>支部長挨拶

新しい年が始まりました。昨年はコロナ禍の中であり、いろいろと制約も多く、十分な活動ができませんでした。今年もオミクロン株が出現、先行きが危ぶまれる状況でもあります。

75周年という記念すべき年の挨拶は、支部の運営にちからをそそぐ支部長の方々です。



理事長 成田 禎介

いよいよ本年は示現会七十五周年記念展の開催を迎えます。昨年はオープニングのセレモニー中止など不十分なこともあった中、巡回展も含めて一通りかろうじて無事に七十四回展を済ませることができました。示現会全員の努力によるものと大きな感謝を申し上げます。今年に入っても世の中に未だに騒がしいことになっていて、この先にも心配が残っておりこの三月の展覧会準備と四月の本展の開催をなんとか無事に進ませることを念ずるばかりです。

本年は示現会として七十五年の歴史を刻む年であり受け継がれてきた重みを持つ記念展として充実した展覧会を目指して、皆さんと共に、力を合わせて頑張っていきたいと思います。

賀春



明けましておめでとうございます。
いよいよ、2022年が始まりました。今年も示現会にとっても75周年という記念の年になります。コロナ禍は変わりませんが、皆さんの力を結集して、75周年記念展を素晴らしい展覧会にしようではありませんか。新しい年に向かって支部長の皆様からのご挨拶です。

さあ！今年を希望溢れる年に

新しい年に寄せて・支部長挨拶

「自分の経験から伝えたいこと」
青森県支部 相馬賢二



「えんぶり」は八戸の共同芸能で、冬の間眠っている田の神様を揺さぶり起こし、田に魂を込める儀式とされている。馬の頭を象った華やかな烏帽子を被る姿、子供たちの独特な衣装など「絵の題材」として極めて魅力的である。豊作を祈願する祭りでもあるが、大震災後は復興の願いも込められるようになった。その思いを描きたいと思っているが難しい。

奥入瀬は30分で到着できる。地元にいるのに絵の題材にしない理由が無い。しかし、何度挑戦しても歯が立たない。難しいが面白いと感じるようになったが難関だ。

まだまだ描き足りない。もっとうまく描きたいという思いはあるが、個人の力では限界を感じる。しかし、支部には同じ思いを共有できる仲間がいて、それに応えてくれる本部の指導者がいる。この素晴らしい環境を多くの人に伝え仲間を増やしていきたい。

「新年に寄せて」
山形支部 原田一裕



新春を仰ぎ雪の山形より心から皆様のご多幸を祈念いたします。今、我が家の南天は銀世界の中で赤い実を輝かせています。

さて山形支部も今年開催の75周年示現会展に向け万全の態勢で臨むために準備を進めているところです。昨年はコロナも後半頃から徐々に落ち着きを見せ、当支部も巡回展の開催、支部70回記念画集の発行、秋には最上川美術館周辺での写生会などを実施しました。私も11月、2年ぶりに上京し展覧会を鑑賞してきました。久しぶりに六本木の風にふれ都会の刺激を大いに受けながら、少しだけ若さを取り戻し充実した時間を持つことができました。

令和四年、平穏な日常が戻り、仲間の皆さんと会える日を楽しみにキャンパスに向かえればと思います。

今後の予定
2月15日・理事会

ここで75周年に向けての最終調整が話し合われます。決まりました内容は随時この事務局だよりでお知らせいたします。



特集1

支部長の言葉

2022を希望溢れる年に

2022年新しい年に向けて
新潟県支部 川寄 猛



新しい年が明けました。今年こそコロナが収まり展覧会、制作活動が自由に出来る事を願うものです。

さて、昨年、期の半ば事務局の方が退会されました。介護と高齢で制作意欲を無くしたとのことでした。少し時間を置いて留まって頂くようお願いしましたが、残念な結果となりました。他にも同じような事例が発生しており大変な危機感を感じております。

現在、私は長岡市と美術協会とで美術振興対策委員会を立ち上げ、市展への応募者数を増やすことや、絵画の制作の楽しさ、等々の意識付けを計る目的で、少しでも美術振興に繋がればとの思いで活動しております。

支部員は今四十名です。絵を描くと言う共通のテーマを通じて、これ以上支部員の退会に歯止めを掛けたいものです。

支部の近況について
長野県支部 保坂良郎



私は示現会展に出品してから40年以上が経ちました。示現会で多くの先生方にご教示を受け、また多くの仲間達と知り合え、絵を描き続けられ、今日までなんとか元気に過ごせてくれたことは本当に幸せでした。

長野県支部も全盛期には40人以上もいたのですが、現在は支部会員20人程度になってしまいました。そこへコロナ禍も重なり支部展も2年中止となってしまいましたことは誠に残念です。なんとか次は開催したいと思っておりますが、ほとんどが高齢者となりどうなることや頭の痛いところです。

もうしばらくの間、老骨に鞭打ってなんとか頑張りたいと思っております。今後ともなにごんよろしくお願ひ申し上げます。

県支部の歩み
石川支部 中村末二



全国示現会々員の皆様。新らたな年を迎え、心機一転して絵筆を取り七十五周年記念展に向けて頑張っている事と想います。

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ致します。

数年来のコロナ禍での感染予防対策は日常化し、疲労困憊の今日この頃ですが安全第一に乗り切っていきましょう。

我々の石川県支部は発足からはや十二年余り経過しました。発足時は今は亡き三上浩先生にご指導を仰ぎ、引続き井上武先生にご指導を戴いて現在に至っております。発足当時より「石川県支部の顔」として引っ張って来られた阿戸猛子女史が東京在住のご子息の元に転居される事で石川県支部を退会され、今後は東京の方から示現会展に出品されるとの事です。支部創立からのご尽力に感謝致します。創立メンバーは数名となりましたが、微力ながら後進の指導に努めて、県支部のスキルアップを目指していきます。

新年のあいさつ
福井支部長 内藤利博



新年を迎え、寒い雪模様の日が続きますが、前向きな気持ちで新しい年の支部活動に取り組みたいと思っております。最初の大きな行事は、2月に開催する成田理事長を迎えての研究会となります。

75周年記念展に向けて各支部員が少しでも良い作品を出品できるよう頑張りたいと思っております。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症により支部展を中止するなど活動が大きく制限されましたが、今年はコロナ禍でも支部員と一丸となって、地域に親しまれる創作活動を広めていきたいと思っております。

支部長退任にあたって
岐阜支部 山田裕彦



私事で恐縮ですが、3月末をもって岐阜支部長を退任いたします。

振り返れば2005年より17年間、諸先輩のご指導ご支援をいただきここまでやってきました。心から深くお礼を申し上げます。

就任当初、東京都美術館での審査に臨み、大変厳選で支部の一般出品者の入落に緊張いたしました。まもなく60回展より国立新美術館に移り、会場も広くなりました。審査も緩くなり入落の心配から解放されました。また支部長会での会議、歓談から各支部の抱える諸事情、悩みなど伺って当支部の参考にしたり、改善に繋がったりいたしました。新しい支部長には信頼のおける内木健二氏が就任いたします。皆様の変わらぬご高配ご指導をよろしくお願い申し上げます。

2022 ご挨拶
徳島支部 中本森八



あけましておめでとうございます

昨年の展覧会では数々の受賞者や会員等昇格の朗報をいただき、支部として1年の大きな締めくくりとなりました。本部諸先生方のご指導に心より感謝申し上げます。次第でございます。

2022年は示現会展も75周年記念展。また徳島支部展も第53回展を迎え、この2月3日から6日間、徳島市内繁華街にある画廊「阿波銀プラザ」で開催を予定しています。支部会員の皆さんは、それぞれ出品作品制作に余念がないかと思いますが、重ねて記念展出品作品の制作もお願いしているところです。搬入日まで予定の研究会等を実施して支部会員が揃って記念展に出品できたらと思っております。本年もよろしくお願ひします。

